第４回「立山黒部」世界ブランド化推進会議　議事録

日　時：平成30年12月２日（日）
10:00～12:10
場　所：富山県民会館304号室

１　開会

２　挨拶（石井知事）

皆さん、おはようございます。本日、第４回の「立山黒部」世界ブランド化推進会議を開催しましたところ、座長をお願いしております西村先生をはじめ、皆様には大変御多忙の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。特に、東京や三重県など各地からおいでの皆様には感謝申し上げたいと思います。

さて、昨年６月にこの「立山黒部」世界ブランド化推進会議を設置しまして、また、さかのぼりますと、２年数カ月前に「立山黒部」の保全と利用を考える検討会を設置して、「立山黒部」の世界ブランド化に向けた議論を積み重ねてきました。今後の検討すべき課題として28のプロジェクトをお示しいただいたのですが、その中でも重要な課題の一つでありました黒部ルートにつきまして、関西電力さんと粘り強く交渉、協議をしてまいりました結果、去る10月17日に、岩根社長との間で、60年余の長い懸案でありましたけれども、一般開放・旅行商品化に向けて協定を締結することができました。これによりまして、概ね５年間の安全対策を念のために実施した上で、2024年度から最大１万人規模の一般開放・旅行商品化が実現することとなりました。これによって、立山エリアと黒部エリアが、今までやや分断された感じになっておりましたけれども、結びつくことで世界的な山岳景観を誇る立山黒部アルペンルートと日本一のＶ字峡であります黒部峡谷とを周遊でき、また、美しく雄大な自然だけではなくて、非常に厳しい課題を乗り越えて実現された電源開発の歴史などにも触れることができるということで、立山黒部の大変大きなポテンシャルの一つとして花開くということになったのではないかと思います。

ご決断いただいた岩根社長さんはじめ、関西電力の皆さんに敬意を表したいと思います。同時に、これまで温かく、また、力強くご支援、ご尽力いただいてまいりました委員の皆様やオブザーバーの皆さん、関係の皆様に感謝を申し上げたいと存じます。

また、ほかにもいろいろありますが、立山砂防につきましては、先般、10月１日から開始されました「インタープリベント2018富山」におきまして、ヨーロッパやアジアから約500名の専門家がお集まりになったのですが、そのコアのメンバーの皆様に、白岩砂防堰堤など現場も見ていただいた上で、立山砂防が「顕著な普遍的な価値」があって、これはぜひ世界文化遺産に登録すべきであるという富山宣言を取りまとめていただくこともできました。これも「立山黒部」の世界ブランド化に向けての力強い追い風になるものと思っております。

こうしたことも踏まえまして、今後とも、「立山黒部」の大きなポテンシャルを生かしながら、各種のプロジェクトの推進、実現に努力してまいりたいと思います。

この後、事務局から説明申し上げますけれども、例えば、検討課題となっております立山ケーブルカーは設置してから64年がたっていますが、これに替わるアクセスの手段として、環境

に優しい交通手段と言われ、ヨーロッパでもやられているロープウェイを設置してはどうかといったことについて、その実現可能性について検討いたしました状況の報告をいたしたいと思っております。

このほか、ヨーロッパなどの世界トップクラスの山岳観光地と比べますと、まだまだ立山黒部は、さらにそのあり方を見直して、新たな飛躍と発展を目指し、可能性につなげられると感じております。

きょうも各委員の皆様、それぞれのお立場で忌憚のないご意見、また大所高所からのご意見、ぜひ実効性ある建設的なご意見をいただきたいと思っております。きょうは皆様、よろしくお願いします。

３　新オブザーバーの紹介

【司会】

議事に先立ちまして、今回の会議より新たに、林野庁経営企画課吉村洋課長様にオブザーバーとして加わっていただくことになっております。本日は、富山森林管理署長の梅木洋一様にご出席いただいております。

【梅木オブザーバー代理】

富山森林管理署署長の梅木でございます。林野庁経営企画課の吉村の代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

４　議事

【司会】

では、議事に入りたいと存じます。ここからの進行は西村座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（１）ブランドコンセプトについて

【西村座長】

おはようございます。よろしくお願いいたします。休日の午前中にも関わらず、ご出席いただきましてありがとうございます。

それでは、議題に沿って議論を進めたいと思います。本日は２つ議題がありまして、まず、１番目ですけれども、前回の会議で座長に一任いただきましたブランドコンセプトについてご説明させていただきます。

次に、プロジェクトの進捗について、事務局からご報告いただきまして、それに基づきまして委員の皆様からご意見をいただくこととしています。

まず、１番目のブランドコンセプトについて、事務局から説明をお願いします。

（事務局より資料に基づき説明）

【西村座長】
ありがとうございます。
今、事務局から説明がありましたけれども、ブランドコンセプトにつきましては、これまでもご議論いただいた上で私のほうからご提案させていただきましたので、できればこれで進めたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（異議なし）

【西村座長】
ありがとうございます。それでは、今後、このコンセプトを共有の認識として、「立山黒部」の世界ブランド化を進めることにしたいと思います。

（２）プロジェクトの進捗等について

【西村座長】
では、次に、議題２のプロジェクトの進捗等について、事務局から説明をお願いします。

（事務局より資料に基づき説明）

【西村座長】
ありがとうございます。
これから皆さんのご意見を伺うのですが、特に、このプロジェクト11の「黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化」と、プロジェクト17の「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」に関しては、関係者のご意見をまずお伺いして、そして、全体として皆さん方のご意見を伺いたいと思っております。
そういうことですけれども、まず、全体のプロジェクトをご覧になって、前観光庁長官の田村委員にコメントをいただいて、それからにしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【田村委員】
ご指名いただきましたので、申し上げます。今、ご説明いただきまして、非常に多様なメニューがありますけれども、それぞれ着実に進捗を見ているというところでございますし、特に、黒部ルート見学会につきましては、前へ進んだということで、知事さんをはじめ、県庁の皆さんのご努力、それから、いろいろ難しい課題はおありとは思いますけれども、お取り組みいただいた関西電力さんに改めて敬意を表したいと思います。
冒頭、入り込み客数、宿泊者数のご説明のところで、「滞在型・体験型観光に課題がある」ということでしたが、これははじめからずっと指摘されているところでございますけれども、ことしから、特に訪日外国人の消費動向調査の中で、どこの県で外国の方が何泊していくらお金を消費したのかということが統計で出るようになってきています。それで、訪問率、つまり、その県を訪れたかどうかというところでいうと、ナンバー１が大阪で、２番目が東京、３番目が千葉と、要するにゲートウェイとなる大きな空港があるところが上位に来ているわけであり

ますけれども、特徴的なのは、例えば千葉などは、成田空港があるから訪問率は高いのですが、宿泊数で見ると0.3泊とかで、消費額も非常に少ないのです。

まず数字が出たのが１～３月期なので、冬場の消費ということで見てみると、消費額でナンバー１は実は北海道で、２位が東京、３位が長野県になっているわけです。結局、それはスノーリゾートがちゃんとあって、そこでお客さんが滞在してしっかりお金を使ってくれているということが非常に重要であります。他方で、富山の場合は、似たように雪の資源はあるけれども、消費額は１万円ちょっとぐらいにとどまっている。北海道は10万円ぐらい使ってもらったりしている。そういうところからすると、やはりどうしても、ただ通過する場所ではいけなくて、そこで滞在して、いろんな活動をしてもらうということが重要なんだと改めて思います。

そういう意味で、いろいろな取り組みを進めていただく必要があろうかと思いますけれども、先ほどはご説明がありませんでしたが、宿泊の項目というのもあります。これは、どうしても超高級なところの議論だけに焦点が当たってしまいますが、要するに、幅広いニーズにちゃんと応えられる幅広い品揃えをするというのが大事で、たくさんお金を使いたい人もいるんですね。ですから、そういう人にはそれに応えられる宿泊施設がいるし、リーズナブルにあげたいという人にはそういうリーズナブルに仕上がる宿泊施設がいるという、多様性というのが非常に重要だと思っております。

それから、ロープウェイに関しては、これは立山黒部地域全体の交通体系を考えたときに、総体として、どのように環境負荷の軽減を図っていくのか。それから、お客さんの満足度を向上させ、そして、先ほど申し上げた体験型や滞在型というメニューを増やしていくのかという観点からトータルで少し考えていって、その中でいいタイプを見つけていくべきだろうと思いますし、このロープウェイを作るべきか作らざるべきかということだけではなくて、例えば、上まで上がっていくバスの低公害化みたいなものも図って、そして、下で全部マイカーは受けとめて上には上がっていけないようにするとか、そういう施策とセットでトータルで考えていったらいいかと思います。

あと、宇奈月の賑わいの創出というところがございました。夜のライトアップみたいなことをいろいろ考えておられて、非常にいいことだと思いますけれども、ライトアップをしてちゃんと消費額が上がった例とそうではない例が全国でいろいろあります。やはり、人がそこへ行ったときに、お土産を買おうかとかお茶を飲もうかとか、食事をしようかという仕組みをあわせて考えていく必要があろうと思いますし、夜だけではなくて昼間の、立山黒部地域の玄関口ですから、風情といいますか景観を向上させていくというのがいるのではないかと思っております。

最後ですけれども、全体にこういういろいろな取り組みをやっていって、その地域にどれだけ消費というものを増やしていくか。そして、いろいろな防災だとか環境というところにも全体に目配りをしていくということは、やはり中心となるＤＭＯみたいなものが全体の指揮をとっていく。そういう体制がいるという感じがしました。

【西村座長】

ありがとうございます。

それでは、９ページから10ページのプロジェクト11「黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化」について、この点に関しては、知事の冒頭のごあいさつにもありましたように大きく前

進しましたので、関係の方々からご意見を伺いたいと思います。
まず、関西電力北陸支社の藤井委員代理からコメントをいただけますでしょうか。

【藤井委員代理】
関西電力北陸支社の藤井でございます。本日は、委員の岩根が所用により、失礼いたします。
私どもは、これまで非常に長きにわたりまして、この富山の地で地域の皆様のご協力とご理解を頂戴しながら、水力発電事業を行ってまいりました。今回、富山県さんをはじめとします地元の方々からもご相談をいただきまして、この会議で大変多くの議論を頂戴いたしましたが、やはり地域社会の一員として、安全を確保しながら、ただいま富山県さんからご説明ありましたとおり、また冒頭、富山県知事からもお話がありましたとおり、協力させていただくこととさせていただいております。
なにぶん、黒部ルートといいますと、ご案内のとおり84年が経過しておりまして、非常に厳しい自然環境であります。そういったことから、お客様の安全を確保することには、所要のお時間を頂戴することになります。旅行商品化がスタートした折には、たくさんの方においでいただきまして、ぜひ黒部の自然、そして、歴史を体験いただければと存じます。どうぞよろしくお願いします。

【西村座長】
どうもありがとうございます。
続きまして、地元の自治体のご意見として、黒部市長の大野オブザーバーにお願いしたいと思います。

【大野オブザーバー】
オブザーバーでありますが、発言の機会をいただきまして誠にありがとうございます。オブザーバーですので発言できないかと思っていたのですが、本当にありがとうございます。
今ほど支社長からお話があったとおりでありまして、この点につきましては、僭越ながら、私も市長になる前に県議会議員として相当必死になって取り組んできた一人でありますが、ここまで石井知事をはじめ県の皆様方、また、関電の皆様方には、よくぞここまできていただいたということで敬意を表したいと思っております。
その上で申し上げます。黒部市としては、黒部市のみならず、ここから世界に発信できる大変な事業だと思っておりまして、そのためにも、今からおよそ５年後までに安全対策をやって一般開放・商品化するということになっておりますが、その間が非常に私は重要だと思っています。つまり、これまで、公募見学会で行くことができましたが、まだまだ普通に宇奈月からダムへ行けるという認識、知名度は低いです。ほとんどは立山黒部アルペンルートからダムへ行くんだと、あるいは、扇沢から行くという発想が多いので、この４、５年というのは、非常に私は、安全対策というところに、これは一般ルートとして商品化するんですということを地元も含めて宣伝していくことが大事です。この間のあり方として関電さんに強く求めたいのは、2019年、来年になりますと今までなかった土日祝日の４日間だけでも一般公募見学会を入れますとおっしゃっています。ここは、私は、もう日が近いからいいとして、安全対策を並行して進めながら、2020年度にはぜひもっとどーんと一般公募見学会に振っていただいて、実体験者

数をもっと増やしていただく。このことが、マスコミが映像を通じて宣伝することよりも、実体験された方が生で宣伝している、これが一番強いので、この期間にぜひやっていただきたい。

あわせて、このままいきますと2024年が一般開放になる年かと思いますが、地元の宇奈月温泉は、2023年が開湯めでたく100年という１世紀の歴史を迎えますので、頑張っていただいて１年ぐらい前倒しして、開湯と同じころに商品化・一般化できるということでご努力いただければありがたいと思っております。

これまでの関電さんのご努力を全く知らずに言っているわけではありませんので、十分に、逆に私の意見もわかっていただけると思っております。

今回は黒部ルートの話だけですね。以上です。

【西村座長】

また後でご発言の機会がありますので。次は、とやま観光推進機構の髙木委員、お願いいたします。

【髙木委員】

本当に皆さんのご尽力で、とんでもなく進展したなというのが正直なところです。

さて、そこで、きょうお集まりの方々も含めて、もちろん私どものＤＭＯも含めて、今後、ブランド化に向けて、この関電ルートだけではなくて、どういう努力が必要か、また、我々が自発的にやるよというような、そういうものを次回の会議までにまとめて出すというのはいかがかがまず１点。

例えば、立山ケーブルカーの待ち時間が相当短くなりました。しかし、ツェルマットでは、やはり30～40分待つんですが、物売りが来るんですね。それが楽しいんです。いろいろなお土産を売ってくるので。そういうことも、これは立山町がやるのか、地鉄さんが考えられるのか、あるいは県がやるのか、我々ＤＭＯでやれというのかも含めてどうなのかと。

それから、今ほど黒部市長さんのお話にありましたが、宇奈月温泉のお話ですが、残念ながら廃業した旅館がいっぱいあります。こういう温泉街に真っ暗なところがあると、街の賑わいもイルミネーションも飛んでしまいますので、ぜひ、この５年間、できれば４年後の開湯100年までの間に、市が取り壊すのに補助金を出す。そして、それを駐車場にする。こういうところにもご尽力いただきたい。

また、ＰＲについても、関電さんの営業所は大阪にもいっぱいありますし、いいところにもあります。そういうところもお借りし、また、県の日本橋のああいう館なども利用して、市長がおっしゃった、いよいよ黒四まで行けるぞというのを一体となってＰＲしていくことも大事かと思っております。

申し上げたいことはまだいっぱいあるのですが、要は、県もここまで踏み込んでやっていただいたので、今後は委員の我々も我々の立場で何ができるかということをあわせてやっていかないと、皆さんご指摘のとおり、これが盛り上がらないし、実効性は担保できないだろうと。さまざまな、小さい工夫も含めて、当事者意識を持ってやっていくことが大切ではないかと思っております。以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。あと、地元の経済界を代表して、北陸経済連合会の久和委員、お願いいたします。

【久和委員】

まず、石井知事はじめ、粘り強いご努力をされた関係の方々に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

全体、黒部をいかに世界ブランドにするかという意味で、通り抜けができるというのは非常に大きなメリットになると思いますので、今ほど黒部市長さんからもお話がありましたように、宇奈月温泉と一体となって活性化に努めていただきたいと思います。

それから、黒部ルートだけでいきますと、通り抜けだけではなくて、例えば発電所までの部分は安全性についてはそんなに手を入れなくてもできるようなことですし、剣を後ろから、東側から見られるというのは非常に大きな観光資源にもなります。黒部第四発電所そのものも産業観光としていい素材だと思いますので、通り抜けだけではなくて、黒部発電所からの折り返しというようなことも含めて、いろいろな手段を考えていただければいいのではないかと思います。

それから、８月のお盆過ぎに立山に行きましたけれども、やはり非常に待ち時間が長いのと、帰りに美女平まで室堂からバスで行って、美女平側で待っている時間が非常に長いんです。待つなら室堂側で待ったほうが、お客さんにとってもいろいろな時間の過ごし方もありますので、もう少しバスの運行とケーブルカーのつなぎのところを工夫していただく余地があるのではないかと思っています。

ちょっと個別の話になりましたけれども、以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。

それでは、ロープウェイの整備に関しまして、少し称名滝駅のターミナルの変更などがありましたけれども、きょうは環境省国立公園課の中尾課長がオブザーバーとしておいでいただいておりますので、コメントをお願いしたいと思います。

【中尾オブザーバー】

ありがとうございます。

まず、これまでの富山県による環境保全行政への協力に感謝するとともに、当該会議は中部山岳国立公園の自然環境の保護と利用について、多角的に議論するものであり、本日は会議にオブザーバーとして参加させていただいたことに感謝申し上げます。

さて、立山～弥陀ヶ原ロープウェイ構想については、前回の第３回会議において環境省から課題となる点と、これらに対して十分な検討を行うために必要な調査を実施していただけるようお願いしておりました。先ほどの事務局からのご説明で、調査はまだ実施中であり結果が出ていないということですので、今回の会議資料における情報は暫定的なものと私どもは理解しております。この滝から大観台にいたるところにロープウェイを設置するというルート案１の方につきましては、この資料を拝見いたしますと、自然への改変は小さくありません。環境省としては、富山県、立山町等、地域の皆様をはじめとする関係者の方々のご意見もお伺いしな

がら、十分な情報をもとに慎重に検討を進めたいと思っております。

【西村座長】

ありがとうございます。

続きまして、同じくオブザーバーで、観光庁観光資源課の英課長においでいただいておりますので、コメントをいただきたいと思います。

【英オブザーバー】

観光庁観光資源課長の英と申します。今回から参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

本当に関係者のいろいろなご努力によって、新ルートの合意がですとか、このルートは立山黒部地域が非常にいろいろとブランド化に向けて着実に進んでおられることに敬意を表したいと思います。

きょう資料を拝見して感想として申し上げると、いろいろなルートを開発するということ自体、当然関係者の協力によって進めなければいけないのですが、それと別に滞在型観光地として定着させるためには、いろいろな体験ツアーだとかそこに来た方をどうやって楽しませるかという滞在地としてのいろんな工夫がいるという点で、そういうところに目配りいただいて取り組んでいただければと思っております。以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。

あと、きょうは参考資料として立山町から資料を提出いただいておりますので、その説明も含めて、立山町長の舟橋オブザーバー、よろしくお願いします。

【舟橋オブザーバー】

先に添付資料の説明といいますか、この遊歩道は、上りだけで30分ぐらい歩くということで、諦めてお帰りになられる方がいらっしゃいます。ここは遊歩道なものですから、車も走ることはできない。ところが、電動シニアカーですと、車扱いではないものですから、歩道も走ることができる。登れるかなと思って登ってみましたら登れました。

所管の自然保護課、県の了解をいただけたら、来年度、立山町観光協会として有料でこの事業を始めたいと思っています。ちなみに警察はオーケーなんです。

それでは、立山～弥陀ヶ原ロープウェイの問題について、少しお話をさせていただきたいと思います。先般、地元の立山地区の区長会から、この問題についてどうなっているのか説明してほしいという文書で要望が私のところに参りました。私はオブザーバーなので説明できる立場ではないし、またこれまで発言を遠慮していたし、出なかった会合もございます。そもそもこの話、２つのルートそれぞれそうですが、場所は立山町でございます。そして、第１案の称名平駐車場の地権者は立山町芦峅寺の皆さんです。それを県と町が借り受けて駐車場の運営を行っているということになっています。そして、立山駅周辺は、今度は地元千寿ヶ原地区の方々が旅館なり土産物屋なり飲食店を行っておられます。もし仮に想定１案になると、立山駅周辺の事業者に多大な影響があると思っています。また、大日小屋もしくは大日平山荘さんたちは、

この事業についてよく承知しておられません。つまり、称名滝からしか上がっていけない山小屋２つです。そうなってくると、どういう影響があるのか、ぜひ、私もオブザーバーなものですからできないので、県の方に、地元に対して説明をやってほしいということを申し上げたいと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。

それでは、さまざまなご意見をいただきましたけれども、ここで石井知事から一言いただけますでしょうか。

【石井知事】

まず、黒部ルートについては、いろいろな皆さんからご評価を賜って、大変ありがたく思います。また、関西電力の藤井さんからもお話がありましたけれども、岩根社長も５年間どうしても安全対策に時間がかかるということですが、実施に当たっては、関電としてもこの黒部ルートは大変困難な電源開発、いろいろな課題を乗り越えて黒四ができたという経過もありますので、大変思いがある。せっかくやるのだから、ぜひ富山県や地元と連携しながら、多くの人にこの黒部ルートの意義等を体感していただくように関電としても努力したい、協力したいというお話をいただいていますので、ぜひこれからは、関電さんはもちろんですが、黒部市さんや宇奈月温泉の皆さん、また、幅広い県民の皆さん、この黒部ルートに県外の方も含めて関心を持っておられますので、いろいろなご意見も伺いながら、せっかくやるのですからしっかりとやっていきたいと思います。

それから、今、ロープウェイについてのお話がありましたけれども、まだ構想段階で、どういうルートだったらいいのかとか、基本のところがまだ、言うなればスケルトンというか、骨格を示した程度で議論をいただいておりますので、当然、これがもう少し具体化に向けて進むというのであれば、立山町長さんもともと立派な方ですけれども、地元の皆さんも含めて、十分お話をして、全体としてこの立山黒部を世界的なブランド力のある地域にしようということについては、立山市長さんをはじめ地元の皆さんも、それはそうだと思っていてくれると思いますので、そうした中でどのような進め方、また、例えば称名の第１ルートですと、立山駅周辺のいろいろな民間の施設などもありましたが、どういう影響があるのかといったことも含めて、知恵を出して、大方の方がこれはぜひやるべきだとなるように努力していきたいと思います。

また、環境省さんからもお話がありました。自然環境については十分配慮しながらやっていくというのが大前提ですけれども、これからさらに各論を煮詰めていく過程で、十分に環境の問題については、環境省さんご所管のいろいろな権限もお持ちですから、よくご相談していきたい。また、今回から林野庁さんにもオブザーバーに入っていただきましたけれども、国有林にかかるところもありますので、またいろいろな点でご相談をしていきたいと考えております。以上です。

【西村座長】

どうもありがとうございます。

それでは、残りの時間は少しご自由にご発言、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

それでは、佐伯千尋委員、お願いいたします。

【佐伯（千）委員】

立山山荘協同組合の佐伯です。

去年とことし、２か年にわたりましていろいろ審議をいただきまして、その中で登山者の整備、滞在プログラムの充実、携帯電話の不通エリアの解消等とＷｉ－Ｆｉ、この辺に関して随分と県の方でやっていただきまして、改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

我々のほうで今一番思っているのはロープウェイのことであります。１案、２案、少し我々の組合員等々に意見聴取させていただきました。その中で出てくることで一番心配しているのは何かというと、１つは自然への配慮です。自然環境が破壊されて、大分たくさん破壊されてくるということであれば、ちょっとこれは大変ではないかというのが１点です。その辺を見ますと、ルート１案、ルート２案、比較の対象になってくるのではないかという話があります。

そのほかに、大日方面からの登山者の視点。景観を損なうという意見があります。反対側に登りますから、登ったところから見えると、やはりそのロープウェイが邪魔になってくるのではないかというような懸念。それから、何もなく登っていけるのに、いわゆる登山をしている人たちから見ると、登山の魅力が失われていくという意識の問題。

それから、先ほど言われましたけれども、代替の交通機関等をやった場合に、利便性の問題が出てくるのではないか。いわゆる立山駅から称名平までバスを通した場合に、一般車両を通すのか、通さないのかという問題が出てくるということです。現在は、一般車両は結構早くから通っていますので、登山者は早くから駐車場へ入っていくという問題も出てきます。バスになった場合どうなっていくのか。どの時間帯から運行できるのかという議論も出てきます。

もう一つが、称名滝に関して、ロープウェイの位置です。称名平の駐車場、この辺一帯、我々地元のほうで言われているのは、滝つぼのほうからも含めて、一番下の桂台近辺まで、もっと下まで、いわゆる雪崩の多いところ、落石の多いところだということで認識しております。その中でいくつか建てられる場所があるだろうと。その建てられる場所というのが、いわゆるレストハウス称名であり、途中の、ルート剣でしたか、ドライブインがいくつかありますが、桂台の近辺でそういう場所しかないということです。それもわずかな土地です。そのときに、果たして安全性が確保できるんだろうかという問題が出てくるんです。何かといいますと、今まで我々の、芦峅寺のほうですが、やれる場所は限られてくるものですから、いわゆるレストハウス称名という場所が唯一ある、非常に狭いエリアです。ここで大規模な施設ができるのかという問題も出てきます。やはり懸念材料ということで挙げさせていただきたいんです。

あと一つ、乗りかえの回数が多くなってきたら、山へ上がってくる人たち、登山者から見たら、逆に言うと利便性が悪くなるのではないかという心配があります。美女平のケース、２番のケースであれば、今までどおりでありますし、あるいは輸送力が２倍になってくるということですので、待ち時間解消になってくるのではないかという思いもありますし、それから既存の場所を使っていますので、自然破壊を招くケースが少ないというような意見が出ておりますので、既存の場所でありますので、周辺施設の方々への影響も少ないんじゃないかと考えてお

ります。以上です。

【西村座長】
ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。どうぞ。

【大野オブザーバー】
改めて発言させていただきます。
まず、１つ目は簡単に言います。黒部ルートの件について追加でありますが、文字どおり、これが開通しますと、まさに世界的な電力開発の歴史を持った産業観光になると思いますので、そのためのガイドをしっかり県や関電さんと相談しながら、地元黒部市としてもやっていかなければならないと思っております。
次に、立山の問題ですが、私も何回か雄山から縦走経験をしてしっかり見ているつもりですが、今回のロープウェイに関しましては、今のお話を聞くと、私はルートが３つあるなと思っています。つまり、美女平のところで１点、それから16ページにあります、２つルートがあるかと思います。この保護地区と特別地域、第１種、第３種、このあたりも課題があることはあるかと思いますが、今ほど佐伯さんから地元の詳細なお話もありましたが、富山県民の一人としましては、この一帯を世界的な大きな観光地にするためにも、自然にもちろん配慮しなければなりませんが、ぜひロープウェイの構想を実現してほしいと思います。そのほうが上からこの一帯を見る、あるいはバスで見る、そしてまた頂上まで行く、いろいろな形でものが見られると思います。見られそうで見られない、この雄壮な一帯をしっかりいろいろな視点で見られると思いますので、何とかこのロープウェイは成功してほしい。しかも回転式がいいなと、このような感じです。
これ以上は、詰めることがまだいっぱいあると思いますので、具体的にこれがいいと断定的なことは言えませんが、とにかくこれの実現に向かって進めていければということです。以上です。

【西村座長】
ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。どうぞ鍛治委員、お願いいたします。

【鍛治委員】
佐伯委員から自然に関する意見をいっぱい言っていただいたので、言うべきことはないのですが、自然の中に、それも自然度の非常に高いところに、例えば、必要面積６千㎡とありますが、平らなところと違って切ったり盛ったりそれ以上のいろんなことが出てくると思います。
それから、電気自動車を来年から走らせるというアクセスの道路は、駅舎が予定されている代替案のところまでは2.9km、標高差300m、平均勾配10％と富山県でも１番急だと思います。あそこに電気自動車を走らせるという発想は、やはり歩いておもしろくないんです。上高地などは歩くこと自体が非常に快適で楽しい。ところがあそこは夏の炎天下などでは全くのかんかん照りでありまして、歩くことが苦痛なので、電気自動車という発想が出てくるのは分かりま

した。

それから、ロープウェイですけれども、びわ湖バレイがここに出ていますが、これは日本で一番速いそうです。４分でてっぺんまで行くんだそうです。それで輸送力は相当あるんだろうと思って、ロープウェイの会社に電話で聞いてみました。４月から11月までは４分のところを７分かけて運行すると書いてありましたので、不思議だなと思って聞いたら、スキー場のロープウェイと兼ねていまして、スキー客は早くてっぺんに着きたいから速く回すが、春、夏、秋は琵琶湖の景観をゆっくりと楽しんでもらうために、余り速過ぎると不満があるそうで、ゆっくり回す。ですから、輸送力と乗る楽しさは相反する要素もあるのではないかと。そういうことも考えたほうがいいと思います。

それから、私は今までも何回か言っていて、繰り返しになりますけれども、滞在型というのが非常に重要だし、これから考えていかなければならないと思います。ただ、その拠点をどこに置くかということにつきましては、旅の楽しさというのは地元の文化や歴史に触れるとか、人々の生活を見るとか、そういうことも大いに旅の楽しさの一部ですので、室堂のように山の上につくってしまうと、楽しみ方が単一なものになりますね、登山とか。景色はいいけれども天候も安定しませんし、非常に人も多いし、１週間いるのは退屈だろうと。下につくったほうが大規模な施設をつくるにしても、自然改変も少ないから、工事は楽です。アクセスも楽です。そういうことで、私はやはりどこか下に置いたほうがいいだろうと思います。富山の立地のいいところは、高山、金沢、五箇山、能登、そして立山黒部のちょうど中心になります。富山の平野部でゆっくりしてもらい、天気を見計らって山へ行くというようなことができればいいので、そういう観点も必要だと思います。

あと、雪が豊富なのは非常にいいところですが、北海道、長野、岐阜あたりと違って、スノーリゾートとして富山はあまり適していないと私は思っている。雪の大谷以外は非常に不利な条件だと思うのは、まずは地形。スキー場の地形に向いていない。それから、雪質が悪い。天気も悪い。自然条件が悪いのです。それを人工的なもので補うのは無理です。それで立山のゴンドラスキー場のゴンドラは去年あたり休止になっている。

東京圏を考えてみても、富山まで新幹線でいくら早くなったといっても、軽井沢とか飯山でおりればいいスキー場がいっぱいありますから、ここまで冬の雪を求めて来ようという人はありません。中京圏からは、数河高原のあたりにいい遊び場所があって、スキー客がいっぱいいます。それから関西方面からは、福井にいいスキー場がありますから、あえて富山に来る必要がないので、非常に不利だと思います。

前向きなこともちろん言いたいんですが、こういう計画を考えるときには懸念材料や不利な条件をよく考えながら、100億の投資効果があるかどうか、100億で済むのかどうかということもあわせて考えていきたいと思っています。以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。では、渡辺委員、お願いします。

【渡辺委員】

桜美林大学の渡辺です。

観光商品開発の立場から、ロープウェイについてお話しさせていただきます。

滝というのは内外に非常にインパクトの強い観光資源で、誰でも行ったことがある滝と言ったらいくつも挙がるかなと。それほどに強いインパクトのあるものです。ましてや、今回の称名滝というのは日本一というブランドがつく。そういう意味では非常にインパクトの強い観光資源だと思います。

ところが、現状では、観光産業にいる人間でさえ、称名滝が日本一であるということを意外に知らない者が残念ながら多いかなと思います。それはなぜかと考えてみますと、おそらく、非常に今の称名滝の状態は商品化しにくい。現実的には、下から行きますと、先ほどからお話がありますように、かなり長い時間歩かなければいけない。それにおもしろくないというのは、同じところを帰ってこないといけないということです。それともう一つは、現在もバスの中から、車窓観光と言えるか言えないかわからないぐらいの感じでしか見えない。

滝というのは、ましてや日本一というブランドがつくと、なるべく基本的には近くまで行くということに意味があるというか、魅力が出てくると思います。華厳の滝しかり、ナイアガラの滝。これは極端な例かもしれませんけれども、船で裏のほうに回れる。そういうものがあります。よくよく考えると、称名滝というのは、そういう意味では日本一というブランドがありながら、極めてそれを実感しづらいというか、本当に日本一だということがお客様にわかってもらいにくい状況にあるのです。では、どうしたらいいかということですが、なるべく見られるチャンスというか、見られる方法を増やす必要があるかなと思います。

今回、提案されているロープウェイですけれども、１案、２案と、先ほど３案というお話も出たんですけれども、こういう形でいずれになるにせよ、見られる形が増えるということは、旅行商品化にとっては非常に大きなことなので、商品をつくる旅行会社としては非常に魅力があると思います。ですので、先ほどの資料の中にもありましたように、これによって新たな客層が増える、獲得できるとか、あるいは注目すべきなのは、長野側からのお客様が少しこれから伸びるだろうという話がありますが、本当にそのとおりだと思います。

ロープウェイは費用を見ても大変大きなお金がかかると思うのですが、お客さんの純増を含めて、やはりこの経済効果というのはばかにならない、かなり大きなものになると思いますので、費用対効果は慎重に計算しなければいけませんが、単年度とかそういう問題ではないと思いますので、非常にこれは富山県にとってかなり大きな新たな旅行の魅力になるということは間違いない。繰り返しますけれども、旅行の観光商品の開発の立場からそういうふうに思います。

【西村座長】

ありがとうございます。

他はいかがでしょうか。江崎委員、目が合いましたので。

【江崎委員】

いろいろ問題を整理したほうがいいと思います。私は利害関係がない委員なので、公平性の観点から申し上げさせていただくと、前回の会議の終わりに申し上げたのですが、まず資料をちゃんとつくっていただきたいと言ってある。ロープウェイをつくって、そこからドローンを飛ばしていただいて素敵な景色を見せていただいたのはわかりましたが、逆に展望施設から、

ビューポイントから見たときにどうなのかというのも両方見せていただけないと公平に見られないので、その資料をつくってくださいと申し上げたのにできていないというのは、判断できないので、その点を踏まえていただきたい。有識者を軽視しないでいただきたい。

そういう点でいうと、例えば、当事者である黒部市長さんや立山町長さんがオブザーバーであるというのもちょっとおかしいのではないかと思います。大野さんもずっとオブザーバーのままで今まで、大変だったと思うので、そういうところも改善されたほうがいいのではないか。本音を語っていく上で、体制を整えないと、ちゃんとした議論ができないのではないのかというのが、私が一番思っているところです。

もう一つは、もう少し大きな事業を経験されてきた方に、市長さんもお見えですが、私もそうなのですが、個々の事業をやることと全体のデザインを描くことは違うので、ましてやこれほどの大きな公共事業をするときに、やはりしっかりそういうものをデザインできるような専門家を入れたほうがいいのではないかというのがあります。

もう一つは、事業性という点からですが、これはまた別の話ですけれども、体験プログラムの話です。私も今まで十何年間体験プログラムをやってきて、私自身の体験プログラムというのは年間4,000人ぐらいの体験プログラムですけれども、事業者の話と、地域全体の中でどれほど体験プログラムの参加者数を増やすかという話は別問題で考えてきて、ようやく今、18年前に100人しかいなかった体験プログラムの鳥羽市での参加者を６万人まで持ってくることができました。全体としての目標数というものを、例えば、鳥羽市を含めた広域で伊勢志摩に来ているお客様が800万人いて、宿泊者数が400万人いるんだったら、400万人のお客さんの一体どれだけに体験プログラムに参加してもらうのかという、明確な数値目標を出しているんです。やっと1.5%まで来たので、５％というのを目標にすることで、その地域がどう変わるのかということを想定した上で、何のために体験プログラムの参加者数を増やしたいのか考えてもらったほうがいいと思います。

田村さんが言われてたように、滞在というのがすごく大切だと私も思いますので、実際、すごく人気のプログラムでも交通の便がよくなったことで、海外のお客さんは遠くからでも日帰り移動してしまうではないですか。私の地域でも、今、海女小屋のプログラムに東京から日帰りで行けてしまうのです。そのプログラムのためだけに来て、滞在する意味がなければ帰ってしまうのです。そんなふうになってしまうのであれば、体験プログラムをつくっていてもだめだということはわかっているので、もう少しお客様がどう時間をこの中で過ごすのかという組み立てをしっかりしていただきたいと思います。

それと、ロープウェイについて少し思ったのは、今はいいんですが、10年後の日本を考えたときにどうなのかなというのがございまして、例えば、すごく自然環境が厳しいところで、ロープがないと無理なのかなとか思うんですが、ロープなしでも渡れないのかなとか。今からの時代、例えばよその地域だったら、ほかの国だったらドローンが飛んだりしている時代が来ているので、もっとすごい壮大な滝の見方というのも、ドローンなんかを飛ばされてしまったら競争力あるのかとか考えると、私は自分が事業をする上で、今後出てくるかもしれない競合というものをしっかり考えていく必要性もあると思います。今ここに踏みとどまったプランではなく、もうちょっと未来を見てもう一つプランをつくってもいいのかなと。ロープではないのをつくるとか考えてみてもいいんじゃないか。いっそのこと飛躍するならそれぐらいの夢を持っていただきたいと思います。

以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。大変刺激的なお話で、夢が広がります。

他に、山田さん何か刺激されましたか。

【山田（桂）委員】

今ほど、江崎さんから自分は利害関係がないとの発言がありましたが、私も富山県民ではありませんが、スイスから通っている者として中立的な発言を心がけています。

各プロジェクトに対して個別でお話ししたいことも多々あるのですが、これまでの進め方の話で私が一番よかったと感じたのは、ブランドコンセプトが共有認識となったことです。今後、世界に対してメッセージとして発信していくことも重要ですけれども、インナープロモーションとしてもっと県民に対しても伝えていただきたいと思います。

そもそも、先ほど何のためにという話がありましたけれども、この世界ブランド化も何のためにやっているのかということを、事業者だけではなくて、県民がどこまで理解しているのかということを私は非常に疑問に思っています。特に、ブランド化というのは、ある意味で約束です。お客様に対して、もしくは、今回は世界、未来に対して約束するということになりますが、一番大切なのは、県民に対して約束するということです。そのときに、この「立山黒部」の世界ブランド化の意義が、現在あまり県民に認識されていないのではないかと私は思います。

なぜかというと、２週間ほど前に地元のテレビに生放送で出演させていただいたのですが、そこで、「立山黒部」の世界ブランド化について、「超高級ホテルはいるかいらないか」という問が視聴者に向けてありました。こういう超高級ホテルがいるかいらないかというような、枝葉的な議論でしか理解されていない。これまでの議論の中でも、今後のインバウンドを考えたときに、多様な受入環境としてグレードやカテゴリーが違うものが必要なのではないかという話をしましたが、そういう極端な議論はこの場ではしていません。マスコミも含めて、認識がまだまだ足りないのではないかと思います。

２ページ目の下に書いてある「価値を表現」のところも、私たちは理解できますが、もう少し県民に対してや、広く国民に対して理解できるような形で説明する必要もあるのではないかと思います。ましてや、このブランド化というのは、観光産業に関連する事業者だけの話ではなく、富山県全体としてどう捉えていくかという話だと思います。もちろん、今後、いろいろな計画で地域振興や経済活性化を目指すと思いますが、県民が取り組みに対してしっかりと認識し、誇りを持って生活していくということに対して考えた打ち出し方をしないといけない。県民の理解がない中で、推進会議でこれ以上話をしていっても、この28のプロジェクトのそれぞれの計画が進んだか進まないかという進捗状況だけの話で終わってしまうのではないか。最終的に、このプロジェクトを推進することによって、県全体はどうなるのか。ひいては、どういう形で県民生活に寄与できるのかというところが見えてこないので、早い段階で、ＫＰＩ、数値目標を定めていただいてもいいのではないかと思います。

特に、自然環境の保全の話ですが、そういう話からすると、国の政策である満喫プロジェクトも同様ですが、なぜ外国人の受け入れをしなければならないのかという理解が不足しています。経済政策として、もっとしっかりお金を使っていただいて収益性を上げて、税収を上げる

ところまで波及させないと、それによる自然環境を守るためのメカニズムを構築できないわけです。そういう意味では、自然環境の保全や保護と利活用は両輪なはずですから、どちらかだけでいいというものではなく、これを両方回すことによって、富山県自体がどのように豊かになるのかということを私はもっと明確に打ち出す必要があると思います。

そもそも現状維持はできないはずです。実際、お客様の数だけ見ても、150万人のピーク時から100万人を切っている状況ですし、今の市場だけを相手にしていては、客単価を上げられるとか、もっと稼げるという話はどこにもないわけです。私は一概に数の議論をしたいわけではなく、先ほどのロープウェイの話にもありましたけれども、美女平の混雑緩和ができたとしたら、お客様の満足度向上にもつながります。ヨーロッパでは、ロープウェイをゆっくり回すということ以外にも、貸切や食事を提供するといったいろいろな付加価値の高いサービスが提供されています。本当はこういったところをもっとお話ししたいのですが。

最終的には、経済的な価値だけではなく、自然を守るための意義がしっかりと県民に伝わらないとだめではないでしょうか。特に、この立山黒部の持続可能性だけではなくて、富山県全体やひいては日本国そのものの持続可能性をも追求しているということを、私はもっと県民にアピールすべきだと思います。最終的には、県民が世界に誇れる立山黒部になっていないと意味がないと思います。特に、今後の新しいプロジェクトは相当ハードルが高いですが、新しいことをやっていくということに対して、特に将来世代に対してしっかりと意義を伝えていかないといけないと思っています。だからこそ、このブランドコンセプトを今一度分かりやすく、誰もが分かるような形での解説も必要かと思います。

長くなりましたが、先ほど江崎さんから数値目標の話もありましたが、どうやって稼ぐのか、県全体で一体いくら稼ぐのかという、それはもちろん観光だけではなく、外貨の稼ぎ方の中での柱の立て方の話で、しっかり立ててほしい。例えば、今の沖縄はハワイ州を入込数で超えたといいますが、県民所得はハワイ州の半分です。それでは意味がないわけです。富山県の経済活性化ということも広くお考えいただければと思います。

あと、個別のプロジェクトの話として、リゾート、バカンス化に必要な長期滞在型のホテルの話もありましたが、室堂にある施設には50年近く経っているものもあります。これはターミナルも含めてです。あと、ロープウェイの話もいろいろとご意見があると思いますが、新しい魅力の提供という部分だけでなく、立山黒部のグランドデザインをしっかり決めて、必要な数値目標を立てて、しっかり今後も議論を行っていきたいと思っています。

以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

【髙木委員】

本当に山田委員の意見は全くそのとおりで、資料のほうも今まで言ってきたことなので、今さらということで書いてないのだと思いますが、過激なことを言いますけれども、消えゆく商工会議所、消えゆく商工会のリストを、30年後のを、経産省に出していただきたいと言っています。あるはずなのです。そのくらい日本の産業は人口減少で加速度的に衰退していって、富山はものづくりで大変頑張っていますけれども、これも先ほど江崎さんもおっしゃいましたが、

技術進歩によってどう変わるかわからない状況にあるんです。今はまだゆっくりした変化ですけれども、もう10年たったら加速度的になります。

そうしたときに、このすばらしい、2,000年も前から続く立山黒部を、やはり技術の一つの柱にしていかないといけないんではないか。ビジネスというよりも、県民がやはり豊かにここで暮らすための一つのツールだということを、石井知事は先見性を持ってやっていただいているので、国破れて山河ありではありませんが、個々の業種についてはいろいろな問題がありますが、それを乗り越えて、やはり県としてそういう方向性を出していくのが必要ではないかと思います。そういうことは今まであまり議論してきたこともないのですが、私は重要なものだと思っています。一度整理してみて、この必要性を、つまり童話にある「兎をとるため切り株だけを守っていても、そのうち飢え死にしてしまう」ということを少し見せていくのも、県民、市町村民の理解に必要かと思います。

以上でございます。

【西村座長】

どうぞ。

【佐伯（千）委員】

今ほどありました、全体的な経済効果、これから先どうなっていくんだ云々ということは、私どももよくわかっています。非常にわかりやすい意見だったと思いますけれども、要は、ここでスイスというものと富山、立山を比べてみたときに、どこに違いがあるのかということを考えていただきたい。スイスのツェルマットそのものをそのまま立山に当てはめていいものかと。

どこが違うかというと、やはり風土が違う。気候も違えば、地形も違えば、成り立ち、経緯も違う。その中でどこが一番違うかというと、室堂を中心にしようという判断があると思いますが、それだと、先ほど鍛治さんも言われましたけれども、山の上に上がり過ぎている。我々は長年ずっと見ていまして、どこが富山県の立山エリアで足りないのかと見ておりましたら、山麓があまりにも弱いかなと。山麓エリアの施設、あるいは魅力の向上というあたりが一番違ってくるのだろうと。

特に、スイスと立山の違いを考えると、自然公園であるかないか、国立公園であるかないかということがすごく大きいと思います。山の上で、これ以上の自然公園の破壊を招くようなことをやったら、逆に魅力が落ちてしまうのではないかと私は危惧しています。

自然公園であるかという意味合いを、皆さんよく言われます。私もよく聞いています。その中で、スイスの場合は私有地が多い。その中でロープウェイをつくろうという話が出てきています。なおかつ、立山の場合、室堂より上に何があるのだろうと。エリアが、先ほども言ったように狭くなるんです。基地となるところはどこなんだろうとしたときに、先ほど言ったように、やはり山麓エリアではないかと私は考えます。その中で、先ほどからいろいろな意見が出てきていて、それはそれで結構ですが、これだけの多雪の場所というのはないんです。世界でもないっていわれているくらい。スイスの場合の雪とこちらの雪は全然違います。スイスの場合は何万年もかかって積もった雪で、冬は雪が降らないということはないし、結構降りますけれども、日本のように、立山のようにこれだけたくさん降って、単年度のうちに消えてしまう

という場所はなかなかないです。そういう生い立ちも違えば、その中で、どれだけスイスと同じようなことをやっていっていいのかということです。この間も私は見てみましたけれども、室堂でこれ以上増やすというのはなかなか難しい問題ではないかと思っています。山麓のほうでもっと増やすような努力をされれば、富山県経済にもそちらのほうが大きなメリットがあるんじゃないかと思います。特に、冬季営業で大町側だけを動かしても、そこに富山県経済が絡む余地はありますか。これはよく聞いていただきたいと思いますが、室堂から扇沢まで動かしても、その間に富山県の施設がありますか。ＴＫＫさんしかないですよ。なおかつ、そこで11月を見ていただければわかると思いますが、赤字なんです。我々も11月は赤字です。そんな季節にこれ以上延ばしても、どこに経済的メリットがあるのか。マイナス要素しかないと私は思います。

そういうことも考えまして、経済的メリット、デメリットとおっしゃいますけれども、本当に富山県経済のためにどうやったらメリットがあるのかということを真剣に考えていただきたいということと、現状の風土を理解していただきたいということです。

以上です。

【西村座長】

森田さん、お願いします。

【森田委員】

いろいろなお話があると思いますが、私が感じているのは、では事業者はどうしていったらいいのかということです。お金を稼ぐということは、いろいろなプログラムを増やすという意味でいうと、まだまだ富山の中には事業者が全然少なくて、事業化されていないことが多い。佐伯さんがおっしゃったように、山麓もですが、立山駅周辺にもあまりお店がない。美女平で待ち時間ができても椅子もなく、広場だけがあって、お店もない。

では、室堂の体験プログラムや宇奈月の体験プログラムはということですが、私のやっている春先のスノーシューツアーなどがありますが、他の会社がやっているかというと、誰もやっていない。うちの会社だけです。いろいろな課題があって、雪の大谷には何十万人もの旅行者が来ていますけれども、室堂平でそのシーズンに散策している人はあまりいないです。私の引率しているお客さんでライチョウを見に行ったりしますが、実際にたくさんの人が来ているけれども、体験プログラムはあるんですかとか、カフェがあるんですかとか、何があるのですかというのはほとんどない。でも、それは、まだまだ事業を増やしてお金を稼ぐ仕組みを作る余地があるということです。新たなプログラムを設けたりとか。まだ何もないです。まだまだ壮大な魅力あるものを作り上げていく余地があるということなんです。それをやっていかなきゃいけないのは事業者だと思います。

では、その中で、きょうの様子がテレビとかで放送されたときに、何かやっても自然破壊ではないのかと言われたり、自分たちに関係ないのではないかと地元の人が思っているようではしょうがないということもありますので、やはり自分たちも何ができるかとか、立山を豊かにしていって、自分たちも儲けていくにはどうしていいかということが見えてこないと、なかなか県民の方々や、私たち末端の事業者が自分だったら何ができるだろうかということを考えづらい。となると、事業者が参入しづらい。では、何かガイドをやりましょうかとなったら、ボ

ランティアガイドばかり。ボランティアガイドの人も、もう一歩進んで、もうちょっとお金を稼いで、自分たちはガイドとしてやっていけるのは何なのかということも考えていく必要があるのではないかと思っています。

それから、例えば、ロープウェイについていえば、今、立山のお客さんは結構高齢の方も多いし、バリアフリーが進んだとはいえ、足場が悪くてなかなかバリアフリーという点からも来にくいというところがあって、今後、高齢の方が増えていった場合に、もうちょっとゆったり滞在して楽しめるといったときに、まだハードルが高い観光地であることは確かだとすごく思います。待っている間も、椅子もないようなところでずっと高齢の方が待っているというのはつらく、そしてすごくつらい思いをしたら、もう一回行こうとは思わないです。２回、３回行きたいと思うような場所でもないし、１回行ったらすごく混んでいて嫌だったという口コミが広まってしまったら、全然人も来ないということもある。まだまだやることがいっぱいある中で、ではどうしたらみんなにとっていいことがあるのかということです。

地元の事業者さんが、例えば、自分のお店を立山駅の付近に出してみたいとか、山麓で何かしてみたいという人がやる気が出るような場所であるということをもっと広めていかないといけないのではないかと思います。人ごとではない話です。ここら辺で話していても、きっと人ごとだなと思っている人が多いのではないかと思うんです、県民の中には。それは、大きな話が先行しているような感じもするからかと思います。

ロープウェイについては、私は非常に総論では賛成だと思うのですが、ルート１でいえば、大観台にもし駅を作ってしまったら、大観台から美女平までの駅はどうなるのかとか、まだまだ考える点がいっぱいあると思うので、その辺はより深い議論をしていくべきだと思うんですが、総論というか大きなビジョンを持ちながら、では細かい点をどうしていったらいいかとか、誰がそこで稼いでいけるのかということを考えながらのプログラム作りになっていったらいいのではないかと思います。

【西村座長】

ありがとうございます。

もう一人、県東部でツアー事業をされている片山委員、お願いします。

【片山委員】

弊社では、ことし即日の予約というのを始めました。黒部に入られて、宇奈月に泊まられて、天気がよかったら川に行ってみようと思う方が予約を入れられるようにということで。まだ全体の５％ぐらいしか予約が入らなかったのですが、例えば、電話をとれなかったり、お客さんの行きたい時間に私たちがツアーをしていなかったりということもあったのですが、天候を見て決断されるというのがふえているという印象がございます。

あと、個人の旅行がふえているのも感じられるところではあるので、自然の富山が美しいというのは本当にわかるんですが、20年この仕事をしてきて思うのは、雨天の対策をしないとどんどんお客様が帰ってしまうということです。先ほど江崎さんも言われましたけれども、ことしだと、たまたま２組なのですが、３回弊社のツアーに参加されて、３回雨だった方がいらっしゃいました。今度こそ、今度こそと来られるんですが、東京から日帰りされている方もいます。雨だから泊まるんじゃないか、温泉でゆっくりすればいいんじゃないかと私どもも思うん

ですが、何回も来られる方はそうもいかないので、泊まることに価値を感じるプログラムが必要だと感じています。

あとは、学校や団体の方は雨天をものすごく恐れられます。今うちで予約をとっているのは５月、６月の絶対に台風が来ないとき、あとは10月の中旬という限定された期間しか来られません。雨天になって、その200人を３時間で川下りさせることの代わりになるものが富山県にはやっぱりない。先ほど、どこかで映像を見られる場所をつくるということもありましたが、そういうものがあってもいいと思うのですが、自然の体験をしようと思っている方の代替としてもう少し詰めた議論が必要ではないかと思います。一事業者だけでどうこうというのも難しいというのを感じているところです。

以上です。

【西村座長】

ありがとうございます。

佐伯博委員、お願いいたします。

【佐伯（博）委員】

いろいろと意見をいただいておりまして、しっかり取り組んでいく課題も結構あると感じております。森田さんが言われたように、山でのイベントなどは何もやっていないわけではなくて、しっかりとやっているものもあるんですが、その辺を森田さんがどのように見ておられるのか。これからいろいろな面でもっともっとお客様に滞在していただけるようなやり方をいろいろ考えて進めていきたいと思っております。

今、ロープウェイのところでいろいろご意見が出ておりますが、一番の問題は、やはり立山ケーブルカーがこれから相当お金がかかるという中で、例えば、ここをロープウェイにして、新しく輸送力を増やすとか、バリアフリーとかにもしっかりと対応できるという中で、ケーブルカーよりもロープウェイが一つのこれからの輸送力にとって一番いいのではないかということで、いろいろ研究しているところであります。

また、立山ケーブルカーは、片側が山ということもあり、落石等の問題があったりということもありますので、これからそういったところにかける費用、また、春先の除雪費などいろいろな問題があるものですから、そういったことを含めた中で、ロープウェイというふうに考えているわけですが、従来の場所がいいのか、称名滝、大観台がいいのか、これから調査をしながらいろいろ検討をし、いろいろな多くの課題があると思いますので、そういったことをしっかり詰めながら、どういった方向にしていけばいいのかということが、これからの大きな課題であるのであると思っています。

また、アルペンルート自体がこれから50年を迎えるところへ来て、例えば、室堂ターミナルやホテル立山の老朽化に対する対策や、また、関西電力さんが来年からはトロリーバスをやめて電気バスにする。当然、当社はまだしばらくはトロリーバスで行く予定ですが、いずれはもう日本で当社だけということになりますので、これからのメンテナンス面などいろいろな問題が出てくると、何年後かには、それを新しく別の乗り物にすることも考えなければいけないとか、いろいろなことが出てくるものですから、そういったところも順次費用をかけてやっていく。そういった中で、果たしてどういった乗り物がいいのかということも含めながら、これか

らのアルペンルートを考えていく必要があるのではないかと思っております。
　ただ、立山というのは富山県民の心のふるさとでありますので、この立山の自然、それから、文化・歴史といったものをいかに守りながら、立山のいろいろなことをどうできるかということがこれからの大きな課題になっていくのではないかと思っておりますので、そういったことを含めた中で、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。
　ただ、いろいろな意見の中で、もっともっとソフトの面でも取り組んでいく、そういった必要があるところはしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【西村座長】
　ありがとうございます。
　小橋委員、発言が最後になってしまいましたけれどもお願いします。

【小橋委員】
　雄大な立山のアルペンとＶ字峡の黒部峡谷が一体となって、この地域のいろいろな魅力を発信していかないかんということで、我々はまだまだ改善を考えていかなければいかんなと思っておりまして、そういうふうに進めていきたいと思っております。
　それから、我々としては、黒部峡谷の冬季の営業の話も課題として上がっているんですが、これはまだ検討の途中でございますが、ことしも11月で営業を終了しましたけれども、冬季のトロッコの運転体験会を去年からスタートしておりまして、これについてはことしも少し拡大して、12月ぐらいから来年の３月にかけて、祝日と土日ですけれども進めていこうと思っています。
　昨年からいろいろとお客様からアンケートをいただいていまして、ことしは運転体験で直接お子さんが運転する隣に親御さんにも乗っていただいて運転できるようなメニューもバージョンアップして、より魅力をふやした形で進めていきたいと思っています。
　いずれにしましても、宇奈月の冬というのは賑わいが大事ですので、賑わいの創出となるようにこれからも改善して進めていきたいと思っております。

【西村座長】
　ありがとうございました。
　一応、全員のご意見をいただきましたが、もし何か。山田委員、お願いします。

【山田（桂）委員】
　先ほど、世界ブランド化の話をしました。国では、日本版ＤＭＯは世界水準を目指しているのですが、世界水準の定義の一つに、地域全体をよりよくしていくということがあります。これは地域全体の価値を上げていくことで、例えば、質を上げていくということや、多様な受入環境を推進していくといった地域全体の経営努力になりますが、それが誰から見ても進歩進化しているということが見えていることが一番重要です。環境を守る方法、利活用する方法を含めて、地域全体をよりよくしていく。それが県民のためになっていると言えるデザイン化、計画化が必要ですし、その一つとして、今回のコンセプトをインナープロモーションにしっかり使っていただきたいと思います。

以上です。

【西村座長】
ありがとうございます。
他に何かご発言はありますか。

【江崎委員】
本当に山田さんが言われるとおり、前進しているかどうかというのはすごく大事だと思うので、その前進がどの方向に行っているのか、本当に前進なのか、一歩前の前進だけれども、三歩先には下がっているみたいなことがないように、そのためにも、まだ調査の段階で、調査方法も明確になっていないと思うので、何か物をつくるのであれば、アンケートのレベルではなくて、しっかり社会情勢とかも踏まえた上での需要予測を立てて、専門家にやってもらうということがもう一つ。
また、環境のことも、結構皆さん、保護されたい方の話でいくと、自然の配慮ということが出てきたのですが、対象としている自然が私には見えなかった。なので、皆さんが具体的に何の自然をどう守りたいのかということを明確にしていただきたい。そういう意味で言っても、一番のバロメーターとなっている自然環境は何なのか、それが本当に前向きに発展と同時に守られているのかというようなバロメーターをちゃんと持っていただきたい。そういう意味での調査も、両方ちゃんとやってください。お願いします。

【西村座長】
ありがとうございます。
いろいろな意味でのバックデータが不足しているという感じをかなりの方が思っていらっしゃると思いますし、それはこれからやる中で議論を深めていく、これが出発点だと思いますので、そういうことをぜひこれからやっていきたいと思います。
また、大きなフレームで、長期のビジョンを持って、施策をもっとやっていくということは非常に重要だと思います。多くの方が、立場は違っても同じようなコメントをしてくださっている。また、称名滝に関しては、いろいろな活用の仕方がありますけれども、これが非常に重要な地域の宝であるということに関しては、皆さんの意見は一致していると思いますので、どういうふうにうまくこういうものを生かしていくのが一番地域にとっていいのかということに関しては、これから研究を続けていけたらいいのかなと思います。
今後、調査をさらに進められるということですので、そのことは調査のデータをもとに、また次回、議論したいと思います。
よろしいでしょうか。
それでは、時間になりましたけれども、石井知事から一言いただければと思います。よろしくお願いします。

【石井知事】
きょうは皆様から大変貴重なご意見をいただいて、ありがとうございました。
黒部ルートの売れ行きとか、いろいろな話が出ましたけれども、最後に西村座長におっしゃ

っていただいたように、例えば、ロープウェイの問題とか、滞在型観光をもっと強化するにはどうするかといったことについては、まさにまだ途中経過でありまして、黒部ルートについて大きく前進したというご報告もしなければいけませんし、2024年度から一般開放・旅行商品化になりますがそれまでの準備をどうするかということもありますので、前回の会議から大分時間もたったということで、今回開催させていただいたわけです。おっしゃられるとおり、いくつかまだまだ当然調査をしなければいけないことが前提としてありましたので、そういう点で行き届かない点があったのはご理解いただきたいと思います。

それから、最初に田村委員から、いずれにしても世界ブランド化を進めていくということになると、世界の観光地を見てこられたご体験から、例えば、超高級なホテルを建てるとかそういうことだけではなくて、幅広い品揃えが必要だと。ロープウェイなどの問題も、立山黒部全体の環境負荷、環境に与える影響があまり大きくならないように、環境保全ということも考えながら、トータルで考えていくべきではないかという点は、誠にごもっともだと思います。

また、大野市長さんから、2024年の一般開放・旅行商品化までの５年間が大変大切だというお話がありました。いろいろな点で、また関電さんや黒部峡谷鉄道さんともご相談しなければいけないと思いますし、地元の宇奈月温泉の皆さんをはじめとして、黒部市・宇奈月観光局も含めて、民間で大いに頑張っていただくということと、また、黒部市さん、あるいは富山県が役割分担しながら進めていかないといけないことなど、いろいろあると思いますので、これからその辺の各論も別途ご相談させていただきたいと思います。

それから、環境省の中尾課長さんからは、ルート１について自然の改変が小さくない。立山町をはじめ、地元の意見とかいろいろなこともあるだろうから、そういうことも含めて慎重に総合的に検討したいというお話だったと思います。前回と比べて、いろいろ幅広く考えていただけるのかなと思っております。

それから、全般に、これから先の進め方について、今ある自然への影響というところに主眼を置いたご意見、それから、今あるさまざまな民間の施設のことなども念頭に置いたご意見など、いろいろございましたけれども、一方で、山田委員からも言っていただきましたように、立山黒部はかつて150万人ぐらいの観光客がいらしたわけですが、今は、頑張ってはいるのですが、なかなか100万人に届かない。これは、この14年間で外国のお客さんが、例えば立山黒部アルペンルートベースでいうと２万3,000人ぐらいしかいらしていただけなかった外国の方が、昨年で26万人台に増えていても、長い目で見ると、決して伸びていない。このままでいいのだろうかと。

そこで、もちろん立山の貴重な自然を保全しながら、どういう利用をしたら一番いいのか。それが同時に、県民の皆さんにとってプラスになるのか。今、お話しのように、このままいくと、日本全体がいろいろな面で衰退していくということにありますから、富山県はもちろん、ものづくりをはじめ製造業が産業の背骨だと思っていますが、今はいい形になっておりますけれども、安心していると、世界がどんどん第４次産業革命とか新興国とかいろんなことがある中で、取り残されるおそれもありますから、そこはそこでうまく、くすりのコンソーシアムなども含めて、常に一歩先、二歩先と思ってやっているわけでございます。

観光振興についても、お話のように、10年後、20年後、場合によっては30年後も考えて、このままでいいのかと。どうしたら自然を、大事なところはしっかりと守りながら、この観光資源を有効に活用して、県民の皆さんのためにもなる。それがひいては日本国全体の観光立国と

いう大きなご方針にも沿うというふうになるようにしていきたいと思っているわけで、またご理解をいただきたいと思います。

それから、室堂平にばかり滞在型のいろいろなものをつくるより、むしろ山麓でどうかというお話もありましたが、室堂平も別に、今、自然の植生がたくさんあるところに、ホテルとかをどんどんつくるとか、そういうことは少なくとも私は考えておりませんで、室堂平でも、いろいろな外国の方も含めて多くのお客さんがいらっしゃるときに、もう少しさまざまなお客さんのニーズにあった、多様な品揃えをする。幸い、室堂平は既に駐車場やいろいろなところでスペースもある程度ありますから、そういうものをもっとうまく活用しながら、これはＴＫＫさんもいろいろお考えだと思いますが、今の室堂平にある施設も随分時間がたってきておりますから、いずれにしても、このままであと10年、20年ずっといくということには多分ならないと思っています。こういったことをご一緒に考えていきたいと思います。

山麓部分も振興したらというお話ですが、私も、そういう面もそのとおりだと思いますけれども、ただ同時に、いろいろな専門家のご意見を聞くと、むしろ各論になるとなかなか言いにくいこともありますが、山麓は山麓でいろいろな課題があるわけでして、それぞれにふさわしい魅力を生かした面で、どうやってお客様のニーズに応えるか。これは別に山の上のほうの話ではなくて、当然、山麓も含めてバランスのとれた議論をしていかなければいけないと思っておりますし、これからもまたよくご相談してまいりたいと思います。

それから、江崎さんのほうから、他から見たビューポイントはどうなのかと、資料が足らないというお話しをいただきまして、担当者に聞きましたけれども、今回は今言ったような事情で、前回の会議から時間が空いたわけで、黒部ルートのこともお話ししたい。当然おっしゃる点は私どものほうも認識しておりまして、次回までにそういった資料も、今回は間に合いませんでしたけれども、整えて進めてまいりたい。

それから、今、立山町長さんや黒部市長さんはオブザーバーという形になっておりますが、これはスタートのときに、「立山黒部」の世界ブランド化というかなり大きな議論をする場でしたので、お二人の首長さんにあまり負担をおかけするとどうかなということで、こういう形で整理をしたようですが、だんだん各論になってきていますから、後ほどご意見をお伺いしますけれども、差し支えなければ、この機会に委員になっていただけたらと私は思っております。

そのほかにもいろいろなご意見がありました。ちょっと話が長くなってしまうかもしれませんが、自然を守るという点、自然の何を守るかと。例えば、新幹線の整備などでは、これは国立公園の中の話とちょっと事情は違いますが、このオオタカを守るためにはどうしたらいいかというような、かなり具体的な話をしています。それから、自然といってもいろいろな自然があるので、やはりそういうことをしっかり念頭に置いて話をしていかなければと思っております。

また、山田さん、渡辺先生からは、世界水準に向けて大変貴重なご意見をいただきました。いずれにしても、守る面でも保護の面でも利活用の面でも、やはり大方の方が見て前進しているなと、世界の流れの中で停滞して、守りに入って、じり貧にならないように、しっかり取り組みたいと思っておりまして、そのためにお忙しい皆さんにご無理を申し上げて世界ブランド化推進会議をやっているわけでございまして、これからも、私のほうも誠心誠意、また真剣に取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【西村座長】

どうもありがとうございました。

それでは、時間が少しオーバーしておりますけれども、意見交換はここまでとさせていただきたいと思います。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

今後、この後の進行は事務局にお願いしたいと思います。

以上